

鹿児島県内で4つの医療施設と12の介護関連施設などを運営する天陽会グループ。天陽会中央病院は、外来を中心に担当する隣接の中央クリニックとともに、グループの中核を担う。

認められることがやりがい

「人は財産」(山下みち子副院長・看護部長)との思いから取り組んできた、同院の看護師支援の歴史は長い。院内保育園は開園して20年以上になり、山下副院長の娘さんも利用したほど。現在は約50人の園児がおり、24時間保育に対応している。

短時間正職員制度も10年近い歴史がある。「看護職の離職防止策として導入したもので、利用する理由に特に制限はない」とのこと。基

本給や賞与・退職金が勤務時間に比例するほかは、福利厚生や教育面は正職員と同等だ。

現在、短時間正職員の看護職は11人。週32時間以上であれば、希望に沿って勤務を決められるため、開始も終了もスタッフによって異なり「夜勤を行う短時間正職員もいる」ほどだ。

地域支援室で退院調整などを行う峯山さほ子さんは短時間勤務の利用者第1号。パートで入職後、子どもの成長に合わせて勤務時間を延長し、週32時間を超えてからは短時間正職員に。その後も徐々に時間を増やし、現在は8時30分から16時30分まで勤務する。松崎みほの副部長も「短時間ということを意識しない」という働き振りで、院内の褥創委員会の委員長も務める。峯山さん自身も「仕事を求められること

子育てと仕事を両立する山下さん^④と峯山さん^⑤



は、認められているということ。やりがいになる」と語る。

山下副院長は「育児で短時間勤務を希望する

看護職の ワーク・ライフ・バランス



現場からのレポート

医療法人 天陽会中央病院の場合

No.14

短時間正職員制度導入施設を募集!!

働き続けられる職場づくりに取り組んでいる医療施設の情報を募集しています。

あて先 日本看護協会 広報部

koho@nurse.or.jp

看護師は、一定の経験がある人。病院としては辞めてほしくない人材」。同時に「そういう人には、短時間でも病棟や外来で活躍してほしい」と期待する。

短時間勤務などの効果もあり、山下副院長は「看護師の約1割が“出戻り”です」とは笑む。一度退職した後に復帰する職員が多いという。外来で勤務する山下詠子さんもそんな一人。結婚・出産を機に同院を退職したが、2年の主婦生活を経て別の病院に復職。しかし、2人目の出産で両立が難しくなった。そんな時、以前の先輩に短時間勤務について聞き、同院に戻った。その後3人目にも恵まれ、今年度から週32時間の短時間正職員として働いている。「将来は

資格取得を目指したい」という山下さん。3人の子どもの囲まれながら、看護師として将来の夢を語るのには、働き続けられる職場だからこそだ。看護職から始まった短時間正職員は、臨床工学技士などのコメディカルにも広がった。さらに、准看護師の進学支援として、通学が必要な時期は短時間で勤務する制度もある。

“ノ一残業デー”で時間外勤務を短縮

同院は、職員の時間外勤務の縮減にも力を入れている。委員会活動は基本的に日勤の時間内に実施。また「時間外勤務が多いと心身ともに休まらない」と、3年前から週1日の“ノ一残業デー”を導入。昨年からは水曜・土曜の2日

に増やした。同院では残業を減らすポイントを「職員皆が時間を意識すること」「組織的対応」と分析している。

同院は来年、ハートセンターや緩和ケアなどを行う新棟を完成させる。看護師の一層の確保が必要だ。そのために「人は財産」という思いに裏打ちされた確保定着の取り組みは、大きな力になるだろう。

天陽会中央病院 鹿児島市

■ 病床数	200床
■ 入院基本料	10対1
■ 看護職員数	正規(看142人 准21人) 非正規(看1人 准1人)
■ 平均年齢	31.8歳(2008年度)
■ 離職率	19.3%(2007年度)、10.7%(08年度)